校異源氏物語・初音

としたちかへるあしたのそらのけしきなこりなくゝもらぬうらゝけさにはかすならぬかきねのうちたにゆきまの草わかやかにいろつきはしめいつしかとけしきたつかすみのこのめもうちけふりおのつから人のこゝろものひらかにそみゆるかしましていとゝたまをしける御まへは庭よりはしめみところおほくみかきましたまへる御方　くの有さまゝねひたてんもことのはたるましくなん春のおとゝの御まへとりわきて梅のかもみすのうちのにほひにふきまかひていける仏のみくにとおほゆさすかにうちとけてやすらかにすみなし給へりさふらふ人

　くもわかやかにすくれたるをひめ君の御かたにとえらせ給てすこしをとなひたるかきりなか　くよし　くしくさうそくありさまよりはしめてめやすくもてつけてこゝかしこにむれゐつゝはかためのいはゐしてもちゐかゝみをさへとりよせてちとせのかけにしるきとしのうちのいはひ事ともしてそほれあへるにおとゝのきみさしのそきたまへれはふところてひきなをしつゝいとはしたなきわさかなとわひあへりいとしたゝかなる身つからのいはひ事ともかなみなおの

　く思事のみち　くあらんかしすこしきかせよや我ことふきせんとうちわらひ給へる御有さまをとしのはしめのさかへにみたてまつるわれはと思あかれる中将の君そかねてそみゆるなとこそかゝみのかけにもかたらひ侍りつれわたくしのいのりはなにはかりのことをかなときこゆあしたの程は人　くまいりこみてものさはかしかりけるをゆふつかた御方　くのさむさし給はんとて心ことにひきつくろひけさうしたまふ御かけこそけにみるかひあめれけさの人　くのたはふれかはしつるいとうらやましくみえつるをうゑには我みせたてまつらんとてみたれたることすこしうちませつゝいはひきこえたまふ

　うすこほりとけぬるいけのかゝみにはよにたくひなきかけそならへるけにめてたき御あはひともなり

　くもりなきいけのかゝみによろつ世をすむへきかけそしるくみえけるなにことにつけてもすゑとをき御契をあらまほしくきこへかはし給今日はねのひなりけりけにちとせの春をかけていはゝんにことはりなる日なりひめきみの御かたにわたり給へれはわらはしもつかへなとおまへの山のこまつひきあそふわか

き人　くの心ちともおきところなくみゆきたのおとゝよりわさとかましくしあつめたるひけこともわりこなとたてまつれ給へりえならぬ五えうのえたにうつるうくひすもおもふ心あらんかし

　とし月をまつにひかれてふる人にけふうくひすのはつねきかせよをとせぬさとのときこへたまへるをけにあはれとおほしゝることいみもえし給はぬけしきなりこの御かへりはみつからきこえたまへはつねをしみ給へきかたにもあらすかしとて御すゝりとりまかなひかゝせたてまつらせたまふいとうつくしけにてあけくれみたてまつる人たにあかす思きこゆる御有さまをいまゝておほつかなきとし月のへたゝりけるもつみへかましくこゝろくるしとおほす

　ひきわかれとしはふれともうくひすのすたちしまつのねをわすれめやおさなき御こゝろにまかせてくた　くしくそある夏の御すまひをみたまへはときならぬけにやいとしつかにみえてわさとこのましきこともなくあてやかにすみなし給へるけはひみえわたるとし月にそへて御心のへたてもなくあはれなる御中らひなりいまはあなかちにちかやかなる御有さまももてなしきこへたまはさりけりいとむつましくありかたからむいもせのちきりはかりきこえかはし給みき帳へたてたれとすこしおしやり給へは又さてをはすはなたはけにゝほひおほからぬあはひにて御くしなともいたくさかりすきにけりやさしきかたにあらねとえひかつらしてそつくろひ給へき我ならさらんひとはみさめしぬへき御有さまをかくてみるこそうれしくほいあれこゝろかろき人のつらにて我にそむきたまひなましかはなと御たいめんのをりをりにはまつわか御こゝろのなかさをも人の御こゝろのおもきをもうれしく思やうなりとおほしけりこまやかにふるとしの御ものかたりなとなつかしうきこえたまひてにしのたいへわたり給またいたくもすみなれたまはぬ程よりはけはひをかしくしなしてをかしけなるわらはへのすかたなまめかしくひとかけあまたして御しつらひあるへきかきりなれともこまやかなる御てうとはいとしもとゝのへ給はぬをさるかたにものきよけにすみなしたまへりさうしみもあなをかしけとふとみえてやまふきにもてはやし給へる御かたちなといとはなやかにこゝそくもれるとみゆるところなくゝまなくにほひきらきらしくみまほしきさまそし給へる物おもひにしつみ給へるほとのしわさにやかみのすそすこしほそりてさはらかにかゝれるしもいとものきよけにこゝかしこいとけさやかなるさまし給へるをかくてみさらましかはとおもほすにつけてはえしもみすくし給ましくやかていとへたてなくみたてまつり給へとなを思にへたゝりおほくあやしきかうつゝのこゝちもし給はねはまほならす

もてなし給へるもいとをかしとしころになりぬる心ちしてみたてまつるも心やすくほいかなひぬるをつゝみなくもてなし給てあなたなとにもわたり給へかしいははけなきうひことならふ人もあめるをもろともにきゝならし給へうしろめたくあはつけきこゝろもたる人なきところなりときこえたまへはのたまはせんまゝにこそはときこえたまふさもあることそかしくれかたになるほとにあかしの御かたにわたり給ちかきわたとのゝとおしあくるよりみすのうちのおひかせなまめかしくふきにほはかしてものよりことにけたかくおほさるさうしみはみえすいつらとみまはし給にすゝりのあたりにきはゝしくさうしともとりちらしたるをとりつゝみたまふからのきのこと　くしきはしさしたるしとねにをかしけなるきむうちをきわさとめきよしある火をけにしゝうをくゆらかしてものことにしめたるにえひかうのかのまかへるいとえんなりてならひとものみたれうちとけたるもすちかはりゆへあるかきさまなりこと　くしうさうかちなとにもさへかかすめやすくかきすましたりこまつの御返をめつらしとみけるまゝにあはれなるふる事ともかきませて

　めつらしやはなのねくらにこつたひてたにのふるすをとつるうくひすこゑまちいてたるなともありさけるおかへにいゑしあれはなとひきかへしなくさめたるすちなとかきませつゝあるをとりてみ給つゝほゝゑみ給へるはつかしけなりふてさしぬらしてかきすさみたまふほとにゐさりいてゝさすかに身つからのもてなしはかしこまりをきてめやすきよういなるを猶人よりはことなりとおほすしろきにけさやかなるかみのかゝりのすこしさはらかなるほとにうすらきにけるもいとゝなまめかしさそひてなつかしけれはあたらしきとしの御さはかれもやとつゝましけれとこなたにとまり給ぬなをおほえことなりかしとかた　くにこゝろをきておほすみなみのおとゝにはましてめさましかる人　くありまたあけほのゝほとにわたり給ぬかくしもあるましき夜ふかさそかしと思になこりもたゝならすあはれに思まちとり給へるはたなまけやけしとおほすへかめる心のうちはゝかられ給てあやしきうたゝねをしてわか　くしかりけるいきたなさをさしもおとろかしたまはてと御けしきとり給もをかしくみゆことなる御いらへもなけれはわつらはしくてそらねをしつゝひたかくおほとのこもりおきたり今日は臨時客の事にまきらはしてそおもかくし給かむたちめみこたちなとれいのゝこるなくまいり給へり御あそひありてひきいてものろくなとになしそこらつとひ給へるか我もおとらしともてなし給へる中にもすこしなすらひなるたにみえ給はぬ物かなとりはなちてはいうそくおほくものし給ころなれとおまへに

てはけをされたまふわろしかしなにのかすならぬしもへともなとたにこの院にまいるには心つかひことなりけりましてわかやかなるかむたちめなとはおもふこゝろなと物し給てすゝろにこゝろけさうし給つゝつねのとしよりもことなり花のかさそふゆふかせのとかにうちふきたるにおまへのむめやう　くひもときてあはれなるたそかれときなるに物のしらへともおもしろくこのとのうたひたるひやうしいとはなやかなりおとゝもときときこゑうちそへたまへるさきくさのすゑつかたいとなつかしうめてたくきこゆなに事もさしいてし給御ひかりにはやされていろをもねをもますけちめことになんわかれけるかくのゝしるむまくるまのをとも物へたてゝきゝたまふ御方　くははちすの中のせかいにまたひらけさらむ心ちもかくやと心やましけなりましてひんかしの院にはなれたまへる御方　くはとし月にそへてつれ　くのかすのみまされとよのうきめみえぬ山ちに思なすらへてつれなき人の御こゝろをはなにとかはみたてまつりとかめんそのほかの心もとなくさひしき事はたなけれはおこなひのかたの人はそのまきれなくつとめかなのよろつのさうしのかくもん心にいれたまはん人は又そのねかひにしたかひものまめやかにはか　くしきをきてにもたゝ心のねかひにしたかひたるすまゐなりさはかしきひころすくしてわたり給へりひたちの宮の御方には人の程あれは心くるしくおほして人めのかさりはかりはいとよくもてなしきこへたまふいにしへさかりとみえし御わかゝみもとしころにおとろへゆきましてたきのよとみはつかしけなる御かたわらめなとをいとをしとおほせはまほにもむかひたまはすやなきはけにこそすさましかりけれとみゆるもきなし給へる人からなるへしひかりもなくゝろきかいねりのさひ　くしくはりたるひとかさねさるをりもののうちきおき給へるさむけに心くるしかゝさねのうちきなとはいかにしなしたるにかあらん御はなのいろはかりかすみにもまきるましくはなやかなるに御心にもあらすうちなけかれ給てことさらにみき丁ひきつくろひへたて給中　く女はさしもおほしたらすいまはかくあはれになかき御こゝろの程ををたしきものにうちとけたのみきこえ給へる御さまあはれなりかゝるかたにもをしなへての人ならすいとをしくかなしき人の御さまとおほせはあはれに我たにこそはと御こゝろとゝめ給へるもありかたきそかし御こゑもいとさむけにうちわなゝきつゝかたらひきこえ給みわつらひ給て御そものなとうしろみきこゆる人は侍りやかく心やすき御すまゐはたゝいとうちとけたるさまにふくみなへたるこそよけれうわへはかりつくろひたる御よそひはあいなくなときこへ給へはこち　くしくさすかにわらひ給てたいこのあさりのきみの御あつかひし

侍るとてきぬともゝえぬひ侍らてなんかはきぬをさへとられにしのちさむく侍
ときこえ給はいとはなあかき御せうとなりけり心うつくしといひなからあまり
うちとけすきたりとおほせとこゝにてはいとまめにきすくの人にてをはすかは
きぬはいとよし山ふしのみのしろ衣にゆつり給てあへなんさてこのいたはりな
きしろたへのころもはなゝへにもなとかゝさねたまはぬさるへきをり　くはう
ちわすれたらん事もおとろかし給へかしもとよりをれ　くしくたゆき心のおこ
たりにましてかた　くのまきらはしきゝほいにもおのつからなんとのたまひて
むかひの院のみくらあけさせてきぬあやなとたてまつらせ給あれたるところも
なけれとすみ給はぬ所のけはひはしつかにておまへのこたちはかりそいとをも
しろくこうはいのさきいてたるにほひなとみはやす人もなきをみわたし給て

　ふるさとの春のこすゑにたつねきてよのつねならぬはなをみるかなひとり
こち給へときゝしり給はさりけんかしうつせみのあま君にもにもさしのそき給
へりうけはりたるさまにもあらすかこやかにつほねすみにしなして仏はかりに
ところえさせたてまつりておこなひつとめけるさまあはれにみえて経仏のかさ
りはかなくしたるあかのくなともをかしけになまめかしく猶こゝろはせありと
みゆるひとのけはひなりあをにひの木丁心はへをかしきにいたくゐかくれて袖
くちはかりそいろことなるしもなつかしけれはなみたくみたまひて松かうらし
まをはるかに思てそやみぬへかりけるむかしよりこゝろうかりける御契かなさ
すかにかはかりのむつひはたゆましかりけるよなとのたまふあまきみも物あは
れなるけはひにてかゝるかたにたのみきこえさするしもなんあさくはあらす思
給へしられ侍りけるときこゆつらきおり　くかさねて心まとはしたまひしよの
むくひなとを仏にかしこまりきこゆるこそくるしけれおほしゝるやかくいとす
なをにしもあらぬものをと思あはせたまふこともあらしやはとなんおもふとの
たまふかのあさましかりしよのふる事をきゝおき給へるなんめりとはつかしく
かゝる有さまを御覧しはてらるゝよりほかのむくひはいつこにか侍らんとてま
ことにうちなきぬいにしへよりもゝのふかくはつかしけさまさりてかくもては
なれたる事とおほすしもみはなちかたくおほさるれとはかなきことをのたまひ
かくへくもあらすおほかたのむかしいまの物かたりをし給てかはかりのいふか
ひたにあれかしとあなたをみやり給かやうにても御かけにかくれたる人　くお
ほかりみなさしのそきわたし給ておほつかなき日かすつもるをり　くあれと心
のうちはおこたらすなんたゝかきりある道のわかれのみこそうしろめたけれい
のちそしらぬなとなつかしくの給いつれをもほと　くにつけてあはれとおほし

たり我はとおほしあかりぬへき御身の程なれとさしもこと　くしくもてなし給はす所につけ人のほとにつけつゝあまねくなつかしくおははしませはたゝかはかりの御こゝろにかゝりてなんおほくの人　くとしをへけることしはおとこたうか有内より朱雀院にまいりてつきにこの院へまいる道のほとゝをくて夜あけかたになりにけり月もくもりなくすみまさりてうす雪すこしふれるにはのえならぬに殿上人なと物ゝ上手おほかるころほひにてふゑのねもいとをもしろくふきたてゝこの御前へはことにこゝろつかひしたり御方　くも物みにわたりたまふへくかねて御せうそくとも有けれは左右のたいわたとのなとに御つほねしつゝをはすにしのたいのひめ君はしむてんのみなみの御方にわたり給てこなたのひめ君御たいめんありけりうゑもひとゝころにおははしませはみ木丁はかりへたてゝきこえ給朱雀院のきさいの宮の御かたなとめくりける程に夜もやう　くあけゆけはみつむまやにてことそかせ給へきをれいあることよりもさまことに事くはへていみしくもてはやさせ給かけすさましきあか月つき夜にゆきはやう　くふりつむまつかせこたかくふきおろしものすさましくも有ぬへきほとにあを色のなへはめるにしらかさねのいろあひなにのかさりかはみゆるかさしのわたはにほひもなきものなれとゝころからにやおもしろく心ゆきいのちのふるほとなり殿の中将のきみ内の大いとのゝきみたちそこらにすくれてめやすくはなやかなりほの　くとあけ行にゆきやゝちりてそゝろさむきにたけかはうたひてかよれるすかたなつかしきこゑ　くのゑにもかきとゝめかたからんこそくちをしけれ御方　くいつれも　くおとらぬ袖くちともこほれいてたるこちたさものゝいろあひなともあけほのゝそらに春のにしきたちいてたるかすみのうちかとみわたさるあやしく心ゆくみものにそありけるさるはかうこんしのよはなれたるさまことふきのみたりかはしきをこめきたる事もこと　くしくとりなしたる中　くなにはかりのおもしろかるへきひやうしもきこへぬものをれいのわたかつきわたりてまかてぬ夜あけはてぬれは御かた　くかへりわたり給ぬおとゝのきみすこしおほとのこもりて日たかくおき給へり中将のこゑは弁少将のにをさ　くおとらさむめるはあやしくいうそくともおひいつるころほひにこそあれいにしへの人はまことにかしこきかたやすくれたることもおほかりけんなさけたちたるすちはこのころの人にえしもまさらさりけんかし中将なとをはすく　くしきおほやけひとにしなしてんとなむ思おきてしみつからのあされはみたるかたくなしさをもてはなれよと思しかと猶したにはほのすきたるすちの心をこそとゝむへかめれもてしつめすくよかなるうわへはかりはうるさかんめりなとい

とうつくしとおほしたり万春楽御くちすさみにのたまひて人　くのこなたにつとひ給へるついてにいかてものゝねこゝろみてしかなわたくしのこえんすへしとのたまひて御ことゝものうるはしきふくろともしてひめをかせ給へるみなひきいてゝおしのこひてゆるへるをとゝのへさせ給なとす御方　く心つかひいたくしつゝ心けさうをつくし給らんかし